

霊操第3週の終わりに受難全体を黙想するように勧められています。受難の黙想では、私の罪のために苦しみを忍ばれたイエスの苦難を深く感じる事が大切です。ウクライナの方々の苦難も思いながら黙想しましょう。

#### 四旬節の祈り（『カトリック 祈祷書 祈りの友』 カルメル修道会編 P399

いつくしみに満ちた父よ、わたしたちは心をこめてあなたを仰ぎ、あなたによりすがります。あなたはあわれみ深く、正義に満ち、罪人に道を示し、へりくだる者にゆるしをお与えになります。罪の重荷にあえぐわたしたちを顧み、節制によってこの世の快樂を断とうとする努めるわたしたちに、罪や欲望の絆を断つ力を与えてください。わたしたちの償いのわが御子の受難と結び、豊かな実りを結び、心も体も清められて、主の復活のよろこびを味わうことができますように。主、キリストによって。アーメン

#### キリストの逮捕

参考資料『パウロの信仰告白』 カルロ・マリア・マルティーニ著 今道瑤子訳 女子パウロ会

1990年（一部表現を変えています）

#### ルカ 22：45～47

「イエスがまだ話しておられると、群衆が現れ、十二人の一人でユダと言う者が先頭に立って、イエスに接吻しようと近づいた。イエスは、「ユダ、あなたは接吻で人の子を裏切るのか」と言われた。イエスの周りにいた人々は、事の成り行きを見て取り、「主よ、剣で切りつけましょうか（背後にはペトロがいる）」と言った。

逮捕の仕方が卑劣です。陰謀による逮捕、罾を仕掛けた逮捕です。夜、待ち伏せされ、祈りに耽っていた時に捕らえられました。

## 法廷でのキリスト

イエスは、いろいろな法廷に引き出されました。最高法院、ピラトの法廷に出廷させられ、様々な罪名で告発されて尋問されます。最初は応じますが、ある時点から沈黙されます。

一見もっともらしい告発の裏には、利害、正義への恐れ、野心が複雑に絡んでいます。イエスは抵抗せずに受け入れ、人々の闇の中に身を委ねました。

## 十字架上での孤独

キリストの精神的苦しみは、人間から見捨てられたことだったでしょう。皆が逃げ去ってしまいます。ペトロだけが遠くから後をつけてきますが、やがて彼も主を否んでしまいます。

イエスはいつも自分を支援する人たちに囲まれていましたから(私たちもそれに慣れていますが)、急に極端な孤独を感じたのでしょう。この孤独は「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」(マタイ 27:46) という叫びに表されています。神に捨てられたと感じる体験によって、孤独は一層ひどいものになりました。

## 私たち自身への問い

イエスの孤独感に対して私たちの態度はどのようなものでしょうか？ 私たちも孤独に弱く、小さなことでも誘惑を感じやすく、絶望に陥りがちです。このようなもろさの自覚は大切です。これがないと、口では綺麗な言葉を並べますが、困難に直面すると豹変します。これまでと全く違う言葉や態度に出てしまう危険があります。このために、パウロがたびたび勧めている警戒が必要です。

### I テサロニケ 5：3～8

人々が「平和だ。安全だ」と言っているときに、ちょうど妊婦に産みの苦しみが訪れるように、突如として滅びが襲って来るのです。決して逃れることはできません。しかし、兄弟たち、あなたがたは闇の中にいるわけではありません。ですから、その日が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたは皆、光の子、昼の子だからです。私たちは、夜にも闇にも属していません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔います。しかし、私たちは昼に属していますから、信仰と愛の胸当てを着け、救いの希望の兜をかぶり、身を慎んでいきましょう。

### エフェソ 6：11～13

悪魔の策略に対して立ち向かうことができるように、神の武具を身に着けなさい。私たちの戦いは、人間に対するものではなく、支配、権威、闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊に対するものだからです。それゆえ、悪しき日にあってよく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を取りなさい。

キリスト者として生きるということは、絶えず攻撃しようと戻ってくる執拗な敵対者の前に身を置くことを意味しますから、少なからぬ試練です。日々のこと、毎日の単純なことを思うと大げさに聞こえるかもしれません。

しかし、私たちの歴史や、他の国の歴史に起きた悲惨な試練（今のウクライナの状況も）を思い起こせば、人間の敵が確かに活動していることがわかります。

敵は単純な仕方から隠れた方法、陰険なやり方に至るまであらゆる方法を駆使して、信仰や希望をそごうとしています。信仰の火花を消そうといつもたくらんでいます。試練は過ぎ去ったと思う時に、実は一番近くにいます。（2011年3月11日の東日本大震災から何を学んだか？ どのように向き合ったか？ 防災について、平和についてどのように取り組んできたか？）

キリストの苦しみを思うことで、私たちも困難の中にしっかりと立ち、勇気を持って耐え続ける恵みを願うようになります。また、試練にある人を支えられる恵みを願いましょう。

## ヨハネによるイエスの受難

参考資料『キリストの友となるために』ヨハネ福音書による8日間の霊操 カルロ・マリア・マルティーニ著 松本紘一訳 女子パウロ会 1986年 （一部、表現を変えています）

ヨハネにとってイエスの受難は「受肉の完成」

「われわれはその栄光を見た」（1：14） 「栄光」はヨハネ福音書の初めから言及されている。そして受難ではっきりと示される。

「人の子は栄光を受ける時が来た。」(12:23～ 一粒の麦の例え話)

「父よ、あなたの名の栄光を表してください」(12:28)

「栄光」という言葉は、名誉、尊敬、力、成功などの意味に普通使われる。

ヨハネ福音書での「栄光」は、むごたらしさ、侮辱、人からの暴力で示される、という。

大祭司の前でのイエスとペトロの否み (18:13～27)

イエスが大祭司の前に引き出される

次にペトロが登場する

イエスが大祭司に尋問され、再びペトロが登場する

イエスの勇気とペトロの臆病

イエスは泰然自若、ペトロは慌てふためいていて、イエスを否む。

イエスは御父を信頼し切っているのので、落ち着き、勇気、委ねる気持ちになっている。

ペトロは自分に頼ろうとするので、自分の脆さに粉々になってしまう。

ピラトの前でのイエス (18:29～19:16)

裁かれるはずのイエスが、逆に裁く者になり、王として支配している。

**ピラトの前のイエス (18:28～19:16)**

ユダヤ人たちは、ピラトのもとに来て、イエスを死刑にするように訴える。ピラトはイエスを尋問するが、彼には何一つ罪科を見つけられない。そこで人々の賛同を得て、イエスを釈放するように

努めるが、むしろバラバを釈放することになる。次にピラトはイエスを鞭打たせ、兵士たちを使ってイエスを喜劇の王として笑い者にした上で、最後に敷石で裁判を行い、カルワリオの刑場へ送ってしまう。(歴史的な描写)

「見よ、お前たちの王を」19：14

ヨハネでは、普通重要な鞭打ちなどの場面よりも「イエスが王として宣言される場面」にスポットを当てている。

「見よ、お前たちの王を」王に冠を授ける場面も、喜劇的な王の戴冠式として特別な意味を持っている。

ピラトは裁判の席に座り、イエスを喜劇の王として紹介して、彼を見捨て、最後には十字架につけて殺すために渡してしまう。

## 即位の意味

かつて人々はイエスを王として担ごうとして、イエスは人々から逃れた。(ヨハネ6：15 他)

しかし、ここではイエスが自ら王であることを宣言している。

イエスが、神の栄光を示すのは十字架上の王として。

受難のキリストにおいて、真の支配者が現れている。辱めを受けながら救いの計画が成就している。

イエスが侮辱に支配されることに、神の栄光、神の愛があり、この神の愛が私たちにも注がれてい

る。

誰もこんな惨めな王の姿を想像していなかった。(イザヤ 50 章 主の僕の忍耐 イザヤ 52~53 章 主の僕の第 4 の歌)

イエスは達観した場所にどっしりと沈黙して座っている。ことに成り行きを静かに見守っている。

・群衆は大声で叫び、大混乱の中をピラトは右往左往している。

裁かれるはずのイエスが、人々を裁いている。歴史的にはイエスが裁かれ、死の宣告を受ける。し

かし、ヨハネの理解では、キリストの屈辱的な死の中に神の栄光が輝いている。

## 霊的な意味

イエスは惨めさの中で王として即位される。イエスは十字架上でご自分のすべてを御父に譲り渡す。そのことで父の愛を示す。それがイエスの使命。

## ペトロの 2 回の回心

参考資料『宣教者を育てるイエス』 カルロ・マリア・マルティーニ著 今道瑤子訳 女子パウロ会 1988 年 (一部表現を変えています)

ペトロは 2 回の回心を経て、本当のイエスの弟子になるプロセスを見せてくれます。ペトロの歩みを自分の信仰の歩みと照らし合わせてみましょう。

<召出しのモデル 一回目の回心 ルカ 5：1~11>

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をきなさい」

「先生、わたしたちは夜通し苦労しましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」

・「漁の素人のイエスに自分を賭けるのか？」あるいは「家に帰るか？」

ペトロの決断：「みことばですから、網をおろしてみましよう」試練を乗り越えることができた。

お言葉どおりにしたら、豊漁。「主よ、私は罪深いのです。私から離れて下さい」

神の力の前で自分の無力さや罪深さを感じました。ペトロの回心の第一段階。

・「恐れるな、今、この瞬間から、あなたは人をすなどる者になる」 イエスは、弟子に迎えるのに、修行してから出直しなさい、とか条件をつけません。

ペトロは、神の偉大な力を経験して、弟子の第1号になりました。

<イエスを理解しきれないペトロ>

・ペトロの信仰告白 ルカ 9:18~20 マルコの並行箇所 8:29

「それでは、あなたたちは私を何者だというのか？」

「あなたは、メシアです」とペトロは的確に答える。弟子の筆頭としてイエスの信頼に答えている。

・受難予告 ルカ 9:21~27 「人の子は多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」

・ペトロはイエスを脇へお連れして、いさめ始めた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」 マルコ 8:31~33

・ペトロの試練 どうしてこんなことを言われるのか？ 弟子の代表としてイエス様のためを思っただけ。イエスについていきたいがわからない。



## <本物の弟子になるために 2回目の辛い回心の体験>

・「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません。・・・たとえ一緒に死ななければならなくなっても、あなたのことを知らないなどと決して申しません」 マルコ 14：29～31

・わたしたちは、ペトロが自惚れていた、と理解してますが、ペトロの本望を表した美しい言葉。

ペトロに足りなかったのは、「シモン、シモン、サタンはあなた方を、小麦のようにふるいにかけて

ることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰がなくなならないよう

に祈った。だから立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22：31～32) の言葉を

よく聞いていなかったこと。ペトロは最後に思い上がってしまった。

・ペトロの危機 イエスは力ある師で、反対者たちも打ちのめすと思っていた。ペトロは初めて、

弱さに打ちひしがれるイエスを見て深く動揺する。

・イエスがペトロに体験させようと望まれた試練は、人間が体験する一番恐ろしい試練。

「神様に信頼していいのだろうか？」 「私は間違えたのだろうか？」

・ペトロが逃げ出し、悲嘆にくれたのは、兄弟を力づけるため、教会の頭となるための試練。

・主は振り向いて逃げ去ったペトロを見つめられた。ペトロは、「言っておくが、あなたは今日、

鶏が鳴くまでに、3度わたしを知らないと言うだろう。」(ルカ 22：34) の主の言葉を思い出した。

そして外に出て、激しく泣いた。ルカ 22：61～62

・ペトロの痛悔の涙 ここまで落ちるとは思っていなかった。どうか私に憐れみを掛けて下さい。

あなたは、あなたを裏切った私のために十字架(死)に赴こうとされています。情けない私のため

に、命を投げ打って下さいます。自分の弱さ、至らなさ、申し訳なさを痛感し無限のゆるしを願

います。「後悔」と「痛悔」の違い。

・ペトロはイエスを救いたかったけれど、実際は、イエスがペトロを救う。ペトロは、自分こそが救われた者、イエスにゆるしていただいた者、自分こそがゆるしと憐れみに与った者なんだ、という痛い体験をします。それは本当のリーダーになるためでした。

・かつて自分がイエスから遠ざけたいと思っていたあの十字架は、実は神の自分への愛のしるし、救いのしるしだとを悟りました。

・ペトロは完全に生まれ変わります。弟子のリーダーに一番大切なのは、神様のゆるしとあわれみを全身で感じることに。

・ペトロは自分の苦い体験を経て、兄弟を力づける者、本物の弟子になります。

・**最初の回心** ペトロは神の力に圧倒され自分の貧しさを体感した。でも、自分が神の憐れみを必要とするとは思っていなかった。神のゆるしの助手のつもりだった。自分自身が神の憐れみの最初の対象になるとは思っていなかった。救いを最初に受け入れる者とは認めていなかった。

・**2回目の回心** こちらの方が最初よりも深い。それはなぜか？ 最初の場面は、福音の奥義をよく理解していなかった。2回目の回心で、本物の弟子になり、弟子たちのリーダーにもなる。

・**ペトロの悟り** 神は、際限なく自分を差し出し愛する方、決して断罪しない純粋な愛そのもの。

・ペトロは、愛に委ねるといふ、人生で一番優しく、また難しい体験をしました。これまでいつも彼は、率先する側、誇る側にいました。ゆるされ、救われる以外何もできないことを知りました。

わたしたちも、ペトロのように勘違いしてないでしょうか？ 正義の側に立つ、イエスを守るつもりでないでしょうか？ 十字架を遠ざけようとしていないでしょうか？ 自分は神様の憐れみとゆるしを受けると理解しているのでしょうか？

## わたしの勘違い

・住宅営業4年目。大型物件の契約をいただきました。まだ、経験が浅かったわたしは、夕食の時間にアポなしで訪問して、お客様のご家族と夕食をいただくようになりました。人間関係を作って断りにくくなるようにするためです。お客様の趣味の外車にもはまり、乗っていた外車を買って中に入り込もうとしました。結果、競合多数の中（他社の営業は部長級）で受注できました。

顔が広いお客様は、わたしよりはるかに上手に、宣伝をしてくださり、紹介受注もたくさんいただきました。12年、務めてイエズス会に入るご挨拶に伺いました。

するとお客様は「どうして柴田くんのところで家を頼んだかわかるか？」とわたしに質問されます。わたしは「熱心で、真面目で、責任感があったからかなあ？」とっていました。するとお客様の方から口を開かれました。「あの時、自分のところに来ていた営業マンの中で柴田くんが1番へぼかったからだ。当時、わたしの息子はシアトルに留学していた。親元離れて頑張っている柴田くんを応援したら、誰かがわたしの息子をシアトルで応援してくれる、と思ったからだ。」

「自分が1番へぼかった」わたしは、お客様の言葉に愕然としました。と同時に、息子のように大事に思っていたことに感謝の気持ちでいっぱいになりました。厳しい営業の世界で生き延びられるように神様が守ってくださっていたことも感じました。

自分はいっばしの営業マンのつもりでしたが、応援してもらって、育ててもらっていただけでした。大きな勘違いをしていました。

一番弟子を自負していたペトロでしたが、自分はイエスからゆるされることしかできないことを実感しました。その体験とわたしの体験は重なるように感じました。

このような、勘違いをしていないか？ 時々思い出しています。

お客様は「柴田くんは、ねちっこいから、その方（司祭）が向いてるかもしれない」と送り出して  
くれました。

## 振り返りの質問

Q 逮捕されるイエス・不当な裁判を受けるイエスと、自分と重なることがありますか？ 人のために良かれと思ってしていることが、理解されずに苦しみの原因となっていることがありますか？

Q ロシアのウクライナへの軍事侵攻とイエス様の十字架と重なると感じることがありますか？

Q 「戦争がないよう」という平和への願いが薄くなっていたことはありませんか？パウロの言う「警戒を怠った」ことはないでしょうか？ 今、私たちにできることは何でしょうか？（イグナチオ教会での募金活動のご紹介）

イエズス会には、JRS (Jesuit Refugee service) という国際 NGO があります。1980 年にアルペ総長が創立し、その後、国際紛争が起こった地域から出る難民の世話を続けています。今回の紛争においても、すばやく活動を始め、ウクライナ国内、ポーランド、ハンガリーで避難民の世話を開始し、南東ヨーロッパ地区 (クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、コソボ、マケドニア) でも受け入れ準備を整えつつあります。また、EU 全体のネットワークでも支援を計画中です。この JRS から世界中のイエズス会に支援要請がなされました。イグナチオ教会としても、イエズス会の仲間 (ウクライナ国内にもイエズス会員がいます) が奮闘している中、できる限り応援していきたいです。以下の方法で、募金活動を始めます

・イグナチオ教会の来られる方は、直接募金ください。他の献金と間違えないように、封筒の上に「ウクライナのために」、「JRS 支援」などと記入の上、聖堂の献金箱に入れるか、あるいは、事務室まで持参ください。

・郵便振替用紙を使って、郵便局から振り込んでください。

振込口座の番号：00110-4-252741

加入者名：聖イグナチオ教会

通信欄に、「ウクライナのために」、あるいは「JRS 支援」などと明記してください。何も書かれていないと、一般献金になってしまいますので、ご注意ください。

Q イエス様を守るつもりがゆるされた、勘違いの体験（ペトロの2回目の回心）がありますか？

キリストに向かう祈り(ロヨラの聖イグナチオ)

『カトリック 祈禱書 祈りの友』 カルメル修道会編

キリストの魂、わたしを聖化し、キリストの御体、わたしを救い

キリストの御血、わたしを酔わせ、キリストの脇腹から流れ出た水、わたしを清め、

キリストの受難、わたしを強めてください。

いつくしみ深いイエスよ、わたしの祈りを聴き入れてください。

あなたの傷のうちにわたしをつつみ、あなたから離れることのないようにしてください。

悪魔のわなからわたしを守り、臨終の時にわたしを招き、みもとに引き寄せてください。

## 参考文献

『カトリック 祈祷書 祈りの友』 カルメル修道会編 1980年

『キリストの友となるために ヨハネ福音書による8日間の霊操』 カルロ・マリア・マルティーニ  
著 松本紘一訳 女子パウロ会 1986年

『パウロの信仰告白』 カルロ・マリア・マルティーニ著 今道瑤子訳 女子パウロ会 1990年

『宣教者を育てるイエス』 カルロ・マリア・マルティーニ著 今道瑤子訳 女子パウロ会 1988年